

ミサイル燃料 強毒性、旧ソ連で惨事も

【モスクワ＝寺口亮一】北朝鮮が発射を予告する長距離弾道ミサイルについて、燃料として利用されるとみられる液体燃料「ヒドラジン」の危険性が指摘されている。

ヒドラジンは、旧ソ連の弾道ミサイルなどに使用されていた。ロシアの一権威

ある専門家「はタス通信」に対し、過去の例などから、今回の北朝鮮のミサイルも、燃料注入完了から最大5日間、発射状態を保つことが可能との見方を示した。

強い毒性を持つヒドラジンについて、ロシアには古い記憶がある。旧ソ連時代

の1960年10月、バイコヌール宇宙基地（現カザフスタン）で弾道ミサイルが発射試験の直前に爆発、火災や燃料のヒドラジンから発生した有毒ガスなどに、少なくとも91人が死亡した。事故に巻き込まれて死亡した戦略ロケット軍司令官の名前から「ニジェーリンの大惨事」と呼ばれる。北朝鮮でも、発射が失敗すれば、周囲に有毒ガスがまき散らされる可能性がある。